

* 塔望遠鏡の建物が足場が組まれた1934年の写真を発見

塔望遠鏡の建物の工事については、天文月報第23巻第5号(1930年昭和5年)に「アインシュタイン塔の建築工事に就いて」と題した帝国大学営繕課の長尾清一氏の記事がある。工事は昭和5年2月10日に完了したとあり、完成した写真が掲載されている(写真1)。天文月報には塔望遠鏡のことを「アインシュタイン塔」という表現で記事が書かれることがある。アインシュタイン塔はドイツに本物があり、アインシュタインの一般相対性原理の赤方偏移を検証するという同じ目的で作られたから「日本版アインシュタイン塔」と言いたいのは分かるが、姿かたちはひどく違っている。それなのに名称を詐称するのはいかかかと思うが、過去に書かれたことにとやかく言っても始まらない。筆者の知る限り、この望遠鏡を使っていた人たち、東京天文台の人たちがアインシュタイン塔と叫んでいるのを聞いたことはないし、みんなは「タワー」と呼んでいた。

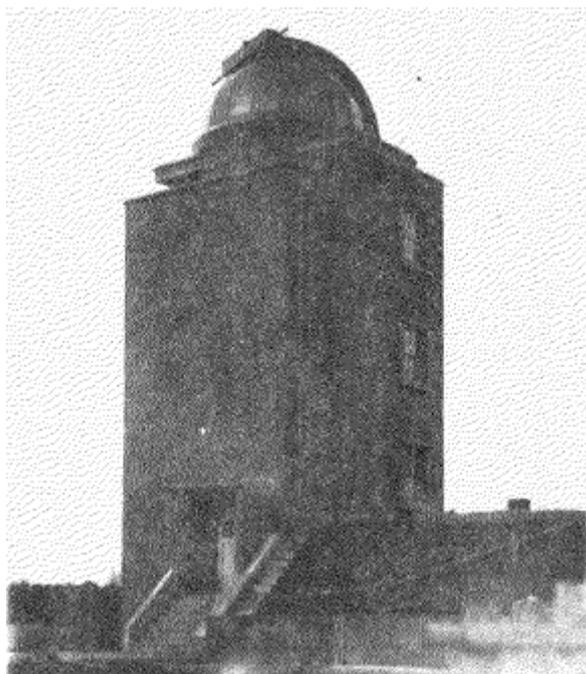


写真1 完成した塔望遠鏡建物



写真2 ドイツのアインシュタイン塔

この記事によると、半地下の分光器室はすでに完成していて、この報告は分光器室の南側の5階建ての塔部分についての報告である。この写真で見ると半地下の分光器室の上には土盛りがあり、塔部分にも足場などなく工事が終り完成している。

東京天文台75周年史には塔望遠鏡は大正15年に完成したと記されているが、この天文月報の記事では工期が昭和3年12月28日～昭和5年2月10日となっている。塔部分の工事は二つに分けて行い、基礎工事及び鉄骨工事とコンクリート及び仕上げ工事に分けて施

工されている。前者の工事が昭和3年12月28日～昭和4年3月31日、後者の工事が昭和4年6月28日契約、昭和5年2月10日竣工となっている。

しかし、今回発見した写真3は、塔部分に足場が組まれ、工事中に見える。この写真は昭和9年7月3日発行の科学画報臨時増刊号に載っていた。この写真は、建物の工事ではなく、シーロスタットの据付工事だったのではないかと思う。天文月報第28巻3号(昭和10年(1935年))に「東京天文台の塔望遠鏡に就て」という藤田良雄先生の記事がある。この記事では建物の内部の諸器械はすでに1昨年に据付を終わっていたと書かれている。昭和9年7月号の記事の写真はその据付工事の最後の頃のものだと考えればよい。

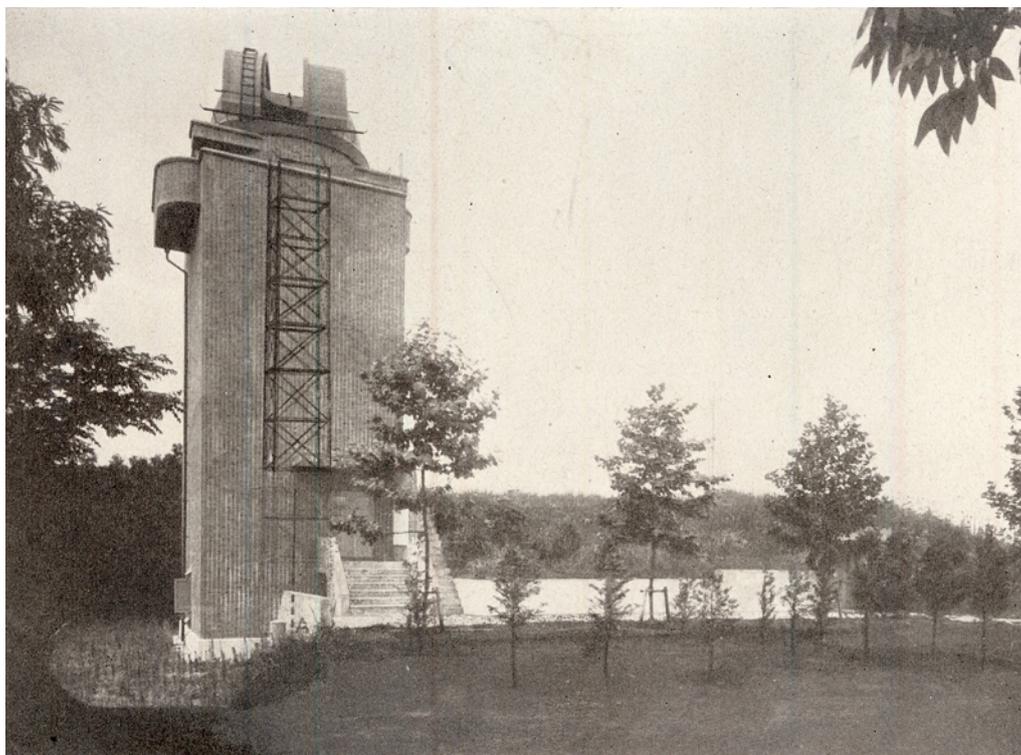


写真3 シーロスタット据付工事中の塔望遠鏡の写真

くしくも、筆者は2009年12月に塔望遠鏡に足場が組まれた写真を撮影した。今年2010年は、塔望遠鏡が完成してからちょうど80年に当たり、ドームの痛みがひどく、雨漏りがひどいのでその修理工事のための足場である。

観測が終わり、使用されなくなった望遠鏡のドームの修理が可能になったのは、恐らく塔望遠鏡が文化庁の有形登録文化財になっていることが大きな理由であろう。この塔望遠鏡の建物は観測が終わり、使用されなくなって電気さえ止められていた。しかしこの建物はまだまだ堅固であり、雨漏りさえしなければ有効利用できる。そこで今年度の予算で何とか電気の回復を行うことになり、近く工事が始まることになっている。

現在の塔望遠鏡の建物は、ドームの雨漏りがひどく地下室まで雨水が入り込み、たぬきかハクビシンと思われる野生動物の住処と化していた。藤田先生の記事にもあるが、分光器室は温度を一定に保つためにほぼ地下室として作られているので湿気がひどい。電気さ

え回復すれば除湿機を働かせて、この建物の有効利用が出来ると考えている。現在は電気が止められる前に持ち込まれた日食用の梱包木箱が山と積まれている。荒果てた建物の中の掃除は容易ではない。写真4が現在の足場が組まれた塔望遠鏡の姿である。



写真4 2009年の雨漏り工事中の塔望遠鏡の建物